

4月の映像化事業で撮影させていただいた、唐丹町地区民協主任児童委員の 河東さんに、その後どのような変化があったのか、最近の地域の様子についてお話を伺いました。

ー主任児童委員の他に活動しているそうですが、どんな事をされていますか？

河東 交通安全母の会の会長ですね。ここの唐丹だけかと思ったら釜石市内の会長にもなったからって。何か人が少なくなったからですかね、私の方に振られてきましたね。（交通安全母の会）各地区にあるんですけど、今は流されたから。

交通安全、交通事故ゼロ作戦なんてあったんです。大渡の方でドーナツ作戦って名前をつけたそうなんです。ドーナツっていうのは丸ですよね。だからゼロ作戦のまると大町でその事が始められたから、ドーナツを皆さんに配ったんですが、そのとき来た方たちは女の方たち10人もいませんでしたね。だから唐丹地区が3名行って、大町の方から7人来たのかな。詳しい名簿もないんですよ。だから、「釜石の母の会会長になったよ」っていてもその名簿もきませんし、そちらの方はあまり詳しくはやっていないようで。

いつも何か会議があると私行くからそれでなったんだと。たいした運動もないんですけども、1年に2回ぐらいかな。警察署の4階で春と秋と、夏もあったかな。早く日が暮れるから電気をつけて下さい、ライトつけてください、っていう早めライトのそんな話を聞きに行ったりで、そのぐらいなんです。

あとはちょこちょこっと唐丹地区で、交通安全母の会さん集まって下さいとか。それは母の会だけではなくって駐在所連絡協議会の方に入っているんですよ。駐在所連絡協議会の中の母の会なので。だからいろいろとね。

ー集まるときには、駐在所で呼びかけるんですね。

次にひまわり教室について聞かせてください。

河東 役員ではないんですけども、公民館主催でひまわり教室っていうのをやっているんですよ。

0才から3才までの子供さんを対象に。1か月に1回なんですけれどもね。親子の交流ですね。3才未満の子供さんと、あとお母さんとかおばあちゃんどちらでもいいですね。お母さんが働いている人は、おばあちゃんが来たりして。10時から12時まで遊ぶんですけども0才の子供さんは遊べないので、スタッフさんが4人ぐらい居てね。その子供をあやしてお母さん同士の交流。「今はいはいできたよ」とか「まだなんだけども」ということを皆さんで話合って、「うちの子供は遅いのかな、早いかな、これでいいのかな」って話することによって、不安が取り除かれるっていう感じですかね。

あとは 11 時ちょっとすぎまで遊びまして、子供たちは何かおやつが出るんですよ。100 円頂くのでね。おやつを食べてね。私はその時子供たちだけでなく、何か手作りの物を作っていてスタッフさんとかおばあちゃんたちにも食べさせたいな。食べて和気あいあいとして帰って来たいなと思って何かにか作って行きます。ここの畑でできた南瓜を煮たり、南瓜ゼリーを作ったり、あずきを煮てからそれを固めて。何か固めるの好きなんです。水ようかんを作ったりして行ってますけどね。今度何作っていいのかなっていうのも楽しみのひとつです。

ーしゃくなげの会はどういうものですか？

河東 しゃくなげの会っていうのは生活支援センター（社協）が主催の介護予防教室です。70 才以上の方を中心に声をかけて。スタッフが 9 人くらい増えたので、今は全員で 24 名くらいでやってるんですけどもね。

まず最初に 10 時頃までに行って血圧をはかってもらって、あとは皆で体操しまして。体操っていても 70 才以上だからあんまりね。エアロビとかそんなのじゃなくて、ただ首を前にしたり後ろにしたりこんな感じにして。それも 11 時過ぎ頃までで終わって。

2 週間に 1 回の 1 カ月に 2 回、200 円いただいて皆でお菓子を買って、あとはお茶を持ってくる人たちが多いのでね。そのお茶を飲んでやっぱりいろんなお話をして、仮設に閉じ込みがちな人たちを外に出してあげたいなと思ってね。それも含まれてると思います。

ー夢クラブとはなんですか？

河東 これは役員でもなんでもないですけど、夢クラブに入っただけ。

ちょっと 70 才以上の人もありますけども。スポコンさんが主催してるんです。そこでやっぱり「皆さんで手足を動かして、この若さをいつまでも保ちましょう」ということでね。体操してます。

ーその他の個人的な活動について聞かせてください。

河東 その体操の他に春には橋野に行ったりね。そしてバスだけではなくて歩きましょうってことで、ちょっと歩いて凄く良いところがあるんです。橋野の滝を見たり、どんぐり広場でお昼を食べたりして帰って来ますけども。そういうことを楽しみにしています。だからね、予定がいっぱいなんです。

ーたくさん活動されているんですね。

神社のお手伝いも忙しいそうですが、天照御祖神社（あまてらすみおやじんじゃ）の事についても教えてもらえますか？

河東 今度は神社のお正月の準備もしなきゃないでしょ。30日は大払いってお手伝いだから、28日くらいから神社にはずっと行きっぱなしです。

皆さん新年のお祝いをご年始に来ますね。31、1日からね。その時に巫女さんも4人お願いするんですよ、神社では。たいした人数っていうか、お参りに来る人たちはそんなに居なくなっただです。皆さんいろいろな場所に散らばったからね。でも、巫女さんだけは前から4人若い人たちお願いしてたから。着物をきて、若い袴をはかせてね。「まず景気よく皆さんを迎えましょう」ということで。その人たちの食事の用意もしなきゃないし。その前にお掃除もしなきゃないし、嫁の代わりをしたり、神社にはひとりしか宮司さんがいないから。私は神社のおばにあたります。

病院にお見舞いに行ったりで、本当に大変なんです。

ー最近の地域の中での活動として、交通安全母の会の活動について教えてください。

河東 民生児童委員の他に、交通安全母の会の会長にもなっています。去年はできなかったんですけども、今年はお盆近くに帰省者を対象に三鉄の駅前で、交通事故ゼロをめざして唐丹のわかめを配るワカメ作戦を行いました。また、唐丹駅前を花で飾ろうということで建設会社の方がボランティアで、花の苗を用意して下さいましたので、近くの方たちと5種類の花の苗を植えて震災前よりきれいな花壇ができました。

ーこれからやっていきたい事はありますか？

河東 社協さんには生活ご安心センターがあります。そこが主催で老人福祉センター滝の家で、語りの会が開催されています。私たちのしゃくなげの会も参加して有限会社ウィルビーの社長さんの志村尚一先生の地域の活性化のお話を聞き、私も地域のために何かやらなければならないと思い、その時ふと思いたったのは、海の物では地域おこしは今はまだできない。ほやもわかめもまだ軌道に乗っていないので、しゃくなげの会の集まりの会の時にいつもおいしい赤かぶの漬物を持ってきてくれる人の事が頭に浮かび、片川のこの土地で赤かぶの漬物を作る事を志村尚一先生と約束をして来ました。

かぶ作りをするにあたって、社協さんと志村さんの会社ウィルビーさんの協力を得、また片川地域の皆さんの協力を得ています。

ー最近の会議や町内の集会ではどのような話がされていますか？

また、どんな方からの要望が多いですか？

河東 会議や話し合いでは、仮設住宅にいつまで住めばよいのか。特にひとり暮らしの人は「窓から見えるのは山と空ばかりだ」といっています。「1日も早く復興住宅を建てて欲しい」ということがたびたび聞かれます。

震災前は一緒にお茶飲みもしました。震災にあってからちりじりばらばらの土地で生活し、前のように思うような交流ができなくなっていました。近くに居たのでね。お友達だったのに、本当に残念に思います。1日も早い住宅の復興をお願いします。

友達は「あまり長引くようだったら、娘の住んでいる仙台の方に移るかもしれない」ということをいっていました。

ー活動する中で何か感じることはありますか？

河東 活動する中で、震災にあった人とあわなかった人との考えの違いがあり、どうしても気を使う時がありますね。

良かったことは、わが家の近くの仮設には、以前近所だった人が多く居るので、何をするのも声かけをしやすいですし、すぐ「いいよ、いいよ」といって協力してくれます。

一日も早く復興住宅が建ち、ちりじりになっていた人たちが早く地元に戻って来て欲しいです。そのためには、流された土地を早くできるだけ高い値段で買い取って欲しいと思っています。

地域の人たちの要望を聞き、早めの決断、行動をしないと地域に仲間がいなくなってしまうということです。宜しくお願いします。

ー民生委員さんとしてはどうでしょうか。

河東 仮設にはいろんな方が行って下さっているのですね。あんまりそんなにうるさいくらいには行かなくてもいいって話されてます。(仮設の方で) うるさいといっている人も居るそうです中には。ここのお茶っこの会にほとんどの仮設の方たちが来ているので、その時お顔の様子を見たりしてお話したりしているので、かえってその方がいいかなとか思っていました。

ー11月のお祭りについて教えて下さい。

河東 これは何十年と続いている事なんですよ。天照御祖神社のね。春は4月ですね。そ

して秋は11月って決まっています。2回お祭りがあります。それは、御神輿さんを出さないお祭りです。そして3年に1回は唐丹のお祭りって有名で、桜が咲く時期にやるんですけど、大名行列があります。

本郷の神社まで行くんです。片岸の天照御祖神社から御神輿さんをおかついで、本郷のグラウンドまで行くんですけども。去年がその大祭だったけどそれはできなかったのでも神社の境内で何か所かの出し物、大石の虎舞とか片岸の権現様（ごんげんさま）とか6、7か所からいろんな出し物がくるんですけども、去年は3か所くらいでしたね。

あと3年後ですからそれまでには、できるんでしょうかね。

でも、御神輿さんをおかつぐ人も居なくなりました。ちりじりばらばらだからね。どうなるかわかりませんが。何かよそから人を頼むような状況になってきているそうです。高齢者さんたちが多くてね。だからね、若い人が必要ですよ。

そして23日がお祭りで、22日の夜は宵宮祭といって御神輿さんを守る人たちが役員さんになってるんですけども、その人たちが10人くらい来てお参りをします。宮司さんが祝詞をあげますので。そこにきて皆さん10人くらいでお参りをして、直会（なおらい）っていうけども、そこでビールを飲んだり。今はね車で来てるからビールも飲めないからただ貰って帰る感じでね。あと、ジュースとか紅白の餅とかおつまみをだして直会をするんですけども。昔はお煮しめとかお餅とかいろいろあげたそうです。

宮司さんはひとりで守ってるから、皆さんのお世話をしなきゃいけないんですね。昼行ってお掃除や準備をして、一回家に帰って来てそれからまた行って皆さんのお世話をして帰って来ます。

3時からのお祭りだったので、8時半頃にはここをでて行っておなますとかお煮しめを作らなきゃいけないけども、今は簡単にしましょっていうことでうどんを頼んでね。そして皆さんお参りに来た人100人近く居るのかな。その人たちにうどんの接待をします。

お参りは3時から祝詞を宮司さんがあげますね。そこに皆さん、役員さんたちや町内の人たちが、一年間の無病息災をお願いして集まります。そこでまず、お祝いをだして下さいますよね。そしてその方たちが直会って行って、終わったら神社の部屋に集まって乾杯をして「今年もこうやって1年が過ぎた。来年もまた元気に過ごしていきましょう。」ということですね。うどんを召し上がっていただいて、そして折りか何かいただいて帰るんですけども。それが今年はもう凄い方たちが午前中に来たために、折りとか何かは午後しか来ないので、配達しなきゃいけないですよ。そこに座られた方たちは少ないんですけども配達をする数が多くてね。

河東 私の他に地域のことを良く知っている方が神社に出入りしてくれてんのね。御縁があっていつも忙しい時は、私と一緒にお手伝いしてくれる方なんですよ。その人が唐丹の出身なので、どこのお家も分かってんです。だから「いいよ、いいよ、そこの家分かってるから」と配達してもらってね。3時にお祭りで終わるのは4時半ですかね。そして配達だから真っ暗になるんですよ。今はもうどこにお家があるかわけ分からないでしょ、暗いしね。だから最後この家に帰ったのが9時頃だったかもしれませんね。後あとまで片付けでね。ひとりいる宮司にはあまり世話かけたくないと思ってね。

そんなのが4月と11月のお祭りなんです。必ず年に2回あって、3年に1回は大きなお祭り。その時はいろんなところから宮司さんが集まって来ますから、縫い物から何からしなきゃいけないですよ。「たすきを新しいのにしたい」といえば私が縫わなきゃいけない。でも今度「ミシン流されてしまった」といったら宮司さんがミシンを私にくれたの。社務所も神社も掃除で大変な状態だから、弱くなれないなあと思ってますけどね。

ー最近の町内の様子はどうか？

河東 仮設の方たちは、前には一部屋にいる方たちは大変そうでね。窓も高いから、誰が通って歩くのかどうかも分からない。まずそれでもいい人も居るかもしれないけどもね。窓を見たって空と山だけだってそういう事も聞きましたけども。

もう今は諦めムードっていうかね。諦めて何にも話さなくなったし。でも良いことは倉庫も持って来て下さってそこにもいろんな物を入れられるようにもなったし、お風呂の追い焚き。今まではひとりふたり入るともう冷めてしまって、っていうのも家族が多い方はすぐ入れればいいんですけど、若い人はやっぱり寝る時でないと入らないって。そうすると冷めてしまうから大変だったんだけど。追い焚きをつけていただいてからはとても良くなりましたっていうことですね。

あとはあまり大変な事は話さなくなってるね。諦めムードです。

ここの仮設は、バス停までが遠いんですよ。だからバスが通るってことも聞いてたんだけど、バスも通らないしということで息子さんが車で来た時に一緒に乗って行っていっぱい買い物をしてくるようです。まとめてね。(ずっと要望は)出していたんです。でも、バスは通らないってことです。なかなかね。

冬ここはもう風が強いんですよ。仮設の方たちも「もう凄い風で、ただただ屋根が飛ばされないようにって祈って寝ている感じだ」っていってましたね。でも自分ひとりではないからね。皆さんが居るからそれを力にしているってことを話してましたね。

ー仮設団地の方たちと交流する機会はどうしていますか？

河東 本当は民生委員の方たちも行かなきゃないんですけども、支援員さんや相談員さんが回って歩くので、民生委員は何か（社協だよりとか）まわすものがあつたりした時に行くくらいで。あとは支援員さんたちにお任せしています。（支援員さんは）顔なじみじゃないですけど、何回も行くことによって親しみというか感じられるようになって来ていると思います。でもあまり何回も行くとね、「また来たのってうるさがられる」っていつてました。安否確認がね。

その他にも地域包括支援センターの方たちが社協さんの方にあるですけど、その人たちが一生懸命です。私たちじゃなくて仮設に住んでいる人たちを対象に、仮設にお茶を飲むお部屋（お茶っこサロン）があるんだそうです。そこに呼んでね。手芸教室とかやってるんですが、「あの人は津波にあつてないのに、被災してないのに何で来んだべ」とか。もう1年9か月、2年になるからそんなことがなく、皆仲良くやっていけばいいんだけどね。やっぱその温度差ですね。そんなことは取り除いてね。被災されない方だって何か心には思うこともあつたと思うんですよ。皆の苦しみを見ててね。だから靴下をくれたりいろいろして下さったし、ここのお茶っこの会にも来て手伝って協力していますから。

去年は1年に1回は神社で、被災された方たちに「最後まで残った12、3世帯で集まりましょう」といつてね。シーガリアマリンホテルで会つたんですよ。その時に「やっぱりカラオケでも歌いましょう、用意するから」っていつたけど、そういう気持ちにはなれませんでしたね。皆が同じように家に入れて幸せな生活ができるんだつたらいいけども、まだどこに行くかも決まらない人たちも一緒だつたからね。だからカラオケはちょっとできなくて、被災された時の話で涙流してね。それで解散でしたね。今度、来年の3月11日に集まりましょうってことだつたけども、まだこんな状態だし集まらないと思いますね。

ー土地の利用について決まったことはありますか？

河東 ここの人も気ままっていえば気ままなんでしょう。市の方で「この土地はどうか」と尋ねに来ると「そこは風当りが強いから嫌だ」といつてね。

まず候補地は決まつたようですけど、そこは日当たりはいいんです。これ以上大きい津波が来たら大変なので10メートルのかさ上げするとかつて。それもまだ地権者には話通つてないそうです。そんな状態なのでいつになるか分かりませんよね。地権者さんは市に勤めた方なので「どうぞ、どうぞ」っていつてるみたいですけども、まだ、連絡はいつていないという事です。

とにかくあの書き物では平成27年ですつけよ。あと3年です、「とても待つていられな

い」っていう人も居ますね。皆高齢の方たち多いですね。

**—もう少しで2年経つのに、これからまだ3年も待つとなると長いですよね…。
それでは、最後に行政へ伝えたい想いをお願いします。**

河東 地域会議に出てもなかなか人数が集まらないんですよ。

市長さんはじめ市役所の幹部の方たちは大勢来るんですけども、もう地域の皆さんは「な
あに何回行ったって同じだ。あと3年ぐらい経たなければ復興住宅も建たないっていうし、
もう行きたくない」という人が多いです。

だから早く復興住宅を建てて、ちりじりになってる人が早めに唐丹に帰って来てもらい
たいと思っています。復興住宅を一日も早くお願いします。27年ではなく、来年にでも始
めて下さい。お願いします。予算があるうちにお願いします。

～ 河東さん、ご協力ありがとうございました。～